

高齢者の保健事業と
介護予防の一体的実施事業での
健康状態不明者への訪問における
継続支援のアセスメント視点

千葉市美浜区 ○谷越祐子 内谷早苗 壺内奈々
古橋裕子 齋藤智子 中野忍



美浜区はどんなところ？



美浜区人口:約15.5万人 うち後期高齢者人口:2.5万人(人口割合:16.15%)

千葉市人口:約98.3万人

千葉市の高齢化率:26.23% 美浜区の高齢化率:26.35% R6年12月末現在

千葉市の方針

後期高齢者を対象に健診結果のデータを活用したフレイル予防に特化した活動を開始

令和4年 若葉区・花見川

令和5年 美浜区・稲毛区

令和6年 中央区・緑区

◇ハイリスクアプローチ

個別の保健指導(健康状態不明者)

◇ポピュレーションアプローチ

集団への健康教育

健康状態不明者 事業概要

対象者の選定条件(76歳、80歳以上は5歳刻み)

- 一定期間
- ・医療レセプトデータなし (＝病院に行っていない)
 - ・健康診査の受診履歴なし (＝健診を受けていない)
 - ・要介護認定を受けていない (＝介護サービスを使っていない)

案内など郵送後、保健師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士から成る

医療専門職 が **連絡せずに立ち寄り訪問**

健康状態不明者(118名) 立ち寄りの結果

多くの方が健康。ただし、そうではない人もいる。

- ・大病をしたことがない。→1回の訪問で終結
- ・予想はしていたが、処遇困難ケースが・・・(パンドラの箱)

→1回の訪問では終わらない。

→援助要請なし

でも、行政の立場・支援者として、支援希望がないからといって終結してよいものか悩むケースが出てくる。

結局何度か立ち寄り訪問をすることに・・・。

肝は初回訪問(気づく)

- 明確な判断基準がない。
- マニュアルはあっても具体性に欠ける
- 支援者の個々のスキルに委ねられている。

↓↓↓

誰が訪問しても、

継続支援の必要性を判断できるようになるためのアセスメント視点を整理しよう

研究方法・結果

調査対象

本人からの援助要請はないが複数回訪問した健康状態不明者 **9事例**

データ収集と分析方法 ・ 結果

具体的確認事項（カテゴリー化）	12項目
想起される健康リスク	6項目
継続支援する理由	2項目

表：健康状態不明者への訪問における継続支援のアセスメント視点(生命の危機)

具体的確認事項	想起される健康リスク	継続支援する理由
<ul style="list-style-type: none"> ・本人に会えたかどうか ・郵便受けにある配達物は適切に管理されているか ・インターホン・ドアをロックした時の反応の有無 ・応答するまでの時間がかかり過ぎないか ・取り次いだ際の家族や同居人の様子に違和感がないか 	生活実態の確認	安全な生活を送れていない恐れ
<ul style="list-style-type: none"> ・本人からの体調不良の訴えや既往歴の有無 ・内科や循環器疾患を疑う兆候（ふらつきの有無や程度、顔色や表情、仕草、発汗の有無や程度）はないか、医療機関受診を急ぐ必要があるか 	体調不良の兆候の有無	
<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン設備の有無 ・エアコン使用の有無 ・気温に合わせて窓を開閉しているか ・本人が水分を摂れているか、摂れる状況にあるか ・気温に合わせた衣服を着ているか 	熱中症、脱水傾向の有無	体調悪化の恐れ
<ul style="list-style-type: none"> ・使用可能な固定電話や携帯電話等の通信機器はあるか ・固定電話や携帯電話等、通信機器は操作できるか ・見守り目的の設備やサービス（新聞や定期宅配等）が導入されているか 	連絡手段の有無	
<ul style="list-style-type: none"> ・視線が合うか ・表情が乏しくないか、虚ろな様子はないか ・会話に矛盾がないか ・自分の状態を他者に説明できるか ・声の大きさや張りに気になる点はないか(か細さ、消え入るような小さな声) ・耳の聞こえは正常の範囲内か ・身体の清潔さ（眼脂・整髪・衣服等）は保たれているか、尿臭はないか 	認知機能は保たれているか 精神疾患の疑いはないか	生命の危機
<ul style="list-style-type: none"> ・居住スペースは片付いているか ・不衛生な環境（ゴミ屋敷）で過ごしていないか ・アルコールの空き缶や瓶が放置されていないか ・プラスチック袋、弁当の空き容器、ペットボトル、ゴミ袋など放置されていないか ・身体の清潔さ（眼脂・整髪・衣服等）は保たれているか ・自ら助けを求める気持ちがあるか 	セルフネグレクトの兆候の有無	健康上の危機時に自ら連絡できない恐れ
<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人、親族との付き合いがあるか ・キーパーソンの有無 ・キーパーソンはキーパーソンとして機能しているか ・民生委員、地域包括支援センター、住居管理人等との関わりはあるか 	人的つながりの有無	

表：健康状態不明者への訪問における継続支援のアセスメント視点(要介護の危惧)

具体的確認事項	想起される健康リスク	継続支援する理由
<ul style="list-style-type: none"> ・歩き方に特徴はないか（すり足、歩幅が極端に狭い、間欠跛行、突進歩行、引きずり歩行、円背） ・ふらつきの有無や程度 ・歩行に支障が出るような、痛み、痺れ、浮腫等、医療機関を受診勧奨する状態か 	歩行状態の異常の有無	転倒転落の恐れ
<ul style="list-style-type: none"> ・通路は確保されているか ・福祉用具（杖やシルバーカー等）の用意や使用はあるか ・住まいに手すり等は設置されているか 	住環境は整っているか	
<ul style="list-style-type: none"> ・外出をしているか（頻度・外出先） ・外出の意欲があるか ・独力で外出することが可能か ・外出を妨げる具体的な理由は何か 	外出の状況	閉じこもりの恐れ
<ul style="list-style-type: none"> ・極端に痩せていないか（体重、鎖骨や腰回りの見た目、体格や肉付きはどうか） ・食事がとれているか、食事量・回数は適正か ・食料を調達できているか、誰が調達しているか ・調理は誰が行うか、調理はできるか 	栄養摂取の状況	低栄養の恐れ
<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物を咀嚼、嚥下できているか ・口腔の状態（発音の明瞭さ、義歯の適合） ・歯科医療機関の受診が必要な口腔の状態かどうか 	口腔機能の状況	要介護の危惧

生活実態の確認

- ・本人に会えたかどうか
- ・郵便受けにある配送物は適切に管理されているか
- ・インターホン・ドアをノックした時の反応の有無
- ・応答するまでの時間がかかり過ぎないか
- ・取り次いだ際の家族や同居人の様子に違和感がないか

これらの項目で気になる点がある → 安全な生活が送れていない恐れがある

体調不良の兆候の有無

- 本人からの体調不良の訴えや既往歴の有無
- 内科や循環器疾患を疑う兆候(ふらつきの有無や程度、顔色や表情、仕草、発汗の有無や程度)はないか、医療機関受診を急ぐ必要があるか

熱中症、脱水傾向の有無

- エアコン設備の有無
- エアコン使用の有無
- 気温に合わせて窓を開閉しているか
- 本人が水分を摂れているか、摂れる状況にあるか
- 気温に合わせた衣服を着ているか

これらの項目で気になる点がある → 体調悪化の恐れ

連絡手段の有無

- ・使用可能な固定電話や携帯電話等の通信機器はあるか
- ・固定電話や携帯電話等、通信機器は操作できるか
- ・見守り目的の設備やサービス(新聞や定期宅配等)が導入されているか

人的つながりの有無

- ・家族や友人、親族との付き合いがあるか
- ・キーパーソンの有無
- ・キーパーソンはキーパーソンとして機能しているか
- ・民生委員、地域包括支援センター、住居管理人等との関わりはあるか

これらの項目で気になる点がある → 健康上の危機時に自ら連絡できない恐れ

認知機能は保たれているか、精神疾患の疑いはないか

- ・ 視線が合うか
- ・ **表情**が乏しくないか、虚ろな様子はないか
- ・ 会話に矛盾がないか
- ・ 自分の状態を他者に説明できるか
- ・ 声の大きさや張りに気になる点はないか(か細さ、消え入るような小さな声)
- ・ 耳の聞こえは正常の範囲内か
- ・ 身体の清潔さ(眼脂・整髪・衣服等)は保たれているか、**尿臭**はないか

セルフネグレクトの兆候の有無

- ・ 居住スペースは片付いているか
- ・ 不衛生な環境(ゴミ屋敷)で過ごしていないか
- ・ アルコールの空き缶や瓶が放置されていないか
- ・ プラスチック袋、弁当の空き容器、ペットボトル、ゴミ袋など放置されていないか
- ・ 身体の清潔さ(眼脂・整髪・衣服等)は保たれているか
- ・ **自ら助けを求める気持ち**があるか

これらの項目で気になる点がある → 健康上の危機時に自ら連絡できない恐れ

歩行状態の異常の有無・住環境は整っているか

- 歩き方に特徴はないか
(すり足、歩幅が極端に狭い、間欠跛行、突進歩行、引きずり歩行、円背)
- ふらつきの有無や程度
- 歩行に支障が出るような、痛み、痺れ、浮腫等、医療機関を受診勧奨する状態か
- 通路は確保されているか
- 福祉用具(杖やシルバーカー等)の用意や使用はあるか
- 住まいに手すり等は設置されているか

これらの項目で気になる点がある → 転倒転落の恐れ

外出の状況

- 外出をしているか(頻度・外出先)
- 外出の意欲があるか
- 独力で外出することが可能か
- 外出を妨げる具体的な理由は何か

これらの項目で気になる点がある → 閉じこもりの恐れ

栄養摂取の状況・口腔機能の状況

- 極端に痩せていないか(体重、鎖骨や腰回りの見た目、体格や肉付きはどうか)
- 食事がとれているか、食事量・回数は適正か
- 食料を調達できているか、誰が調達しているか
- 調理は誰が行うか、調理はできるか
- 食べ物を咀嚼、嚥下できているか
- 口腔の状態(発音の明瞭さ、義歯の適合)
- 歯科医療機関の受診が必要な口腔の状態かどうか

これらの項目で気になる点がある → 低栄養の恐れ

考察

1. 緊急性の判断
2. 医療専門職チームでの共通のアセスメント視点
3. 支援の平準化
4. 今後の課題